

世界理解月間にちなんで

ロータリーの創立記念日

この2月は国際ロータリー（RI）が指定している世界理解月間に当たりますが、2月が世界理解月間に指定された理由を辿ってみたいと思います。ロータリーの創始者ポール・ハリスが、初めてロータリーの会合を開いたのが今から110年前のことでした。1904年の初めごろからポール・ハリスは、数人の友人に交友と相互扶助のクラブ構想を打診していましたが、1905年2月23日（木曜日）の晩、ポール・ハリス（弁護士）、シルベスター・シール（石炭商）、ガスターバスE・ローア（鉱山技師）、ハイラム・ショーレー（仕立て屋）の4名がシカゴ市北ディアボン街のユニティビル7階711号室のローアの事務所で寛容と友情を求めて、初会合を開いたのがロータリーの始まりと言われ、毎年2月23日を創立記念日と定めています。そこで「ロータリーの発祥を記念して」「ロータリーの創立記念日、2月23日の週（～3月1日）は世界理解と平和週間と呼称する」と定められました。この1週間、各クラブはロータリーの奉仕活動を祝い、これまでの業績を振り返り、地域内と世界中で、平和、理解、親睦のためのプログラムに重点を置くことが推奨されています。この月に地区大会を開く地区もあります。

奉仕の第四部門

ロータリーの活動は、あくまでもI Serve、自分がまず参加して行動することが基本となります。また、ロータリアンは、自身がそれぞれの専門職の長として決裁権を持つ指導者であり、自分の職場を通してI Serveの精神で活動する職業奉仕が基本です。しかし近年、海外では職業奉仕を重視する空気が薄まりつつあります。アメリカのように職業をリタイアした後、地区のボランティアなどで満足できなかった方がロータリアンになるケースが増えていることも、社会奉仕を指向する動きに拍車をかけているようです。

ロータリークラブでは、討論会を開催して公共の問題を論じても差し支えないとされます。ただし、「そのような活動の実施は奉仕の第四部門を助長するものでなければならぬ」とされています。第四部門というのは国際奉仕です。ロータリークラブ定款の第5条五大奉仕部門の条文によると、「奉仕の第四部門である国際奉仕は、書物などを読むことや通信を通じて、さらには、他国の人々を助けることを目的としたクラブのあらゆる活動やプロジェクトに協力することを通じて、他国の人々とその文化や慣習、功績、願い、問題に対する認識を培うことによって、国際理解、親善、平和を推進するために、会員が行う活動から成るものである。」と規定されています。

ロータリーの世界社会奉仕

ロータリーの世界社会奉仕はWCS(World Community Service)と呼ばれています。「世界社会奉仕プログラムは国際奉仕活動からなる。ロータリアンは、このような活動を通じて人々の生活を改善し、人々のニーズに応えるプロジェクトを実施する。そして、物質的、技術的、専門的援助を通じて国際理解と親善を推進する」とされます。具体的には、例えばカンボジアで井戸を掘る、ベトナムの村に小学校を寄付する、といった活動となりますが、それがWCSのすべてではありません。国内では、日韓ロータリー親善会議を開催している地区もあり、2年に1回、互いの国を行き来してコミュニケーションを図っています。当クラブでもフィリピンのマリキナロータリークラブと双子クラブの協定を締結して、さまざまな支援を行ってきておりますが、これらの活動も、国際理解と親善を深めるという観点からWCSの趣旨に沿うものと考えられます。

(文責 丹治正博)